

想いがつながらる福祉の仕事

徳屋女子高校

一年

寺田

琉夏

私はこの夏、祖父を亡くしました。

小さい頃は、祖父の畑と一緒に大根を収穫したり、毎年お正月には食べ切れないほどたくさんのお餅を採れた野菜と家でついたまだ温かいお餅を持って来てくれたりした優しい祖父でした。

数年前から闘病生活が始まり、入退院を繰り返すようになりました。今年の春に家に帰

りたいという祖父の願いを聞き、自宅での闘病生活に入りました。祖父が少しでも過ぎしやすくできるように、ケアマネジャーや社会福祉士と話し合って医療・介護用のベッドをレンタルしたり、病院の訪問看護サービスと市の訪問入浴サービスをお願いしたそうです。

私がお見舞いに行ったとき、何度か訪問看護師さんが来られていました。祖父に優しく話しかけ、体調を気遣いながらテキパキと身

体についている管や袋のチェックや点滴の交換、換温、血圧測定などを行っていました。家族にも薬と医療機器の扱い方や心構えを詳しく教えてくれました。それを見ていて、家でも病院と変わらないうちが受けられるんだと感心しました。一人で冷静に仕事をこなしながらも、常に明るい態度で接している姿が、かっこいいなと思いました。

私は見れませんでしたが、母の話によると週に一回訪問入浴サービスの方が来て、自力では動けなくなっていた背の高い祖父をリウマックスさせるために常に話しかけながら丁寧に洗ってくれたそうです。普段は長時間続けて眠れなかつたけれど、お風呂に入った日だけはよく眠れたそうです。病気になる前からお風呂好きだったので嬉しかつたんだろうと母が言っていました。夏の暑い中、汗だくになりながら一生懸命入浴させてくれた介護士の方々を思うと、ありがたいなと思います。

それから、日に日に弱っていき、夜中に危険な状態になったことが何度もありました。その度に、遅い時間にも関わらずすぐに訪問看護師さんが状態を見に来てくれました。少しでも苦痛を和らげるために様々な処置をし、更に、心配して集まった家族にもアドバイスを詳しくしてくれてとても心強かったです。訪問看護師さんや訪問入浴サービスの方々の他にも、週に何度か医師やリハビリや介護のスタッフが来て、その都度、祖父や家族に寄り添ってくれたので安心できました。

結果的に七くなってしまうことが、福祉に携わる様々な職種の方々のおかげで最期まで自宅で過ごすことができ、祖父も嬉しかっただけではないかと思えます。これまで、福祉というイメージでしたが、祖父の死を通して他の福祉の仕事も深く知ることができました。私が会ったどの職種の方も大変な仕事なのに、それを感ぜさせることなく常に人の気持ちに寄り添

い、にこやかに接していて尊敬しました。調
べると、福祉の仕事とは人が快適に生きられ
るように社会的な支援をすることと書いてあ
りました。本当にその通りだなと実感しまし
た。